

# C-up ワールド

## 2003年2月号

### 2003年1月の山行記録

#### 自主山行

#### 中崎尾根から槍ヶ岳

1月3日～7日

#### 参加者

(L)松本善行, 金澤和則, 坂口理子 / 計3名

#### コース・行程の概要

新穂高温泉→白出沢出合→槍平小屋→中崎尾根→  
千丈沢乗越→槍ヶ岳 / (往復)

#### コースの核心・講習のポイント

白出沢出合から槍平間(主にブドウ谷, チビ谷, 南沢) …横からの雪崩に対する細心の注意

#### 報告者のひとこと感想

北アルプスや谷川連峰等、豪雪地帯に対する山行日程の組み方は難しい。難しいとはつまり、ここでは予備日の問題である。

今回を例にとると、1/3～1/7、6日下山予定の予備日1日の計画であったが(無論、長期休暇がままならない社会人山やの宿命において)、登頂の確率ということを観点に、実際それは冬山経験者なら計りうる楽観的計算であることに他ならない。連日続く風雪、それに伴うラッセルを考慮すれば、予想以上の時間と体力を費やすことは言うまでもないが…。

1月3日の出だしから降り続けている雪は、夜半、我々槍平に設営中のテントを埋めつくさんばかりである。それは4日の朝になってもいっこうに止む気配がない。昨日のトレースはほぼ消えている。では、①悪天について中崎尾根上へ強行し、翌日の好天に賭けてみるか？

②その場で沈殿(停滞)か？

③同じく悪天について撤退か？

実に判断に迷う。この判断に迷う最大の要因とは、

6日までの下山が確実であるか否かである。7日は緊急事態における予備日で、基本的には消費しない計画である。順を追って考えてみる。

①の場合・仮に登頂できたとしても、トレースがないと予想される下山に費やす時間を考えると、実際6日の下山は不可能に等しい。

②の場合・登頂は断念した上での、下山時の新雪(表層)雪崩を回避するための沈殿。しかし、このまま降雪が続けば、脱出が更に困難になる可能性がある。

③の場合・前記の通り、横からの新雪雪崩の危険性が高い。

我々3人協議し、③を選択。結果としては正しかった。5日は、4日を上回る大雪。①或いは②だとしたら、果たしていつ下山できたであろうか定かではない。

順調なら冬季3泊4日の行程である本コースは、天候・積雪状況等でその倍以上の日数を費やす可能性が十分あり、この時期、悪天候が通常である北アルプスにおいて、予備日が“1日”というのは、例えばその計画時点で登頂確率は少なくとも50%未満であること容易に想像できる。そうかと言って、各自都合上日程を延ばすことはできない。だから難しい。ここでひとつ勘違いしてほしくないのは、予備日が豊富にあれば強行もできるという意味ではなく、行動にゆとりがもてるという意味である。

果たして今回は運がよいだけで、③にあるように、下山中雪崩にやられたかもしれない、予備日が豊富にあれば、例えば中崎尾根上を数日かかろうとも末端の新穂高温泉までラッセルしながら下山、という手段も考えられるわけである。 / 以上

報告者 松本善行

△△△△△△△△△△△△△△△△

## 中級登山科／冬山テント生活技術研修 ハヶ岳・赤岳と硫黄岳 1月11日～13日

### 参加者

椎谷 同人  
矢沢 原・柴崎 荒井(か)・伊藤(幸)・横川 田口・  
久野 佐々木・福田 日浅 山野(美)・山野(昭)  
(本科生)  
松浦寿治(講師)

計15名

### コース・行程の概要

- 1 日目: 朝茅野駅集合→車にて美濃戸口  
→ 赤岳鉱泉まで2時間の歩き  
テント設営
- 2 日目: 赤岳鉱泉→文三郎新道→赤岳頂上→  
横岳頂上→地藏尾根→赤岳鉱泉
- 3 日目: 赤岳鉱泉→硫黄岳往復  
赤岳鉱泉→美濃戸口→茅野駅

### 感想

あずさの車窓から甲斐駒がすっきりとした姿で青空に映えている。

振り返るとハヶ岳、雲がかかっている。本隊の皆は文三郎の半ば位だろうかと、私も休みが取れていたら一緒に行けたのに、などと考えている自分を列車は運んでくれる。

茅野の駅でHさんと合流、申し込みの時1日遅れなのでテント場赤岳鉱泉まで一人で行かなければと思っていたので楽しい道連れができてうれしい。

美濃戸口から林道伝いの単調な登りが続くが雪が足元にあるだけでなんだか気分が浮かれてくる。二人の歩きに合わせるようにリスも脇の木立を回りながらついて来た。

美濃戸山荘で最初の休憩兼お昼、軒先をお借りするのでお汁粉をたのんだ。休憩で冷えてきた体が中から温まってくる。

去年の冬、1月の後半にここを通った時は南沢方面はまったくトレースが付いていなかったが今年はお正月明けのせいか道が付いている。これなら行者小屋にも直接行けそうだななどと思いつながら北沢に向かう。

さすがに雪はあってもそろそろ林道にあきて

きた頃、やっと北沢を左岸に渡る橋が見えてきた。ここからは細かいアップダウンと雪が付き重くたれさがる枝をアーチ状に張り出した樹林、川には奇妙な文様の氷と次々目を楽しませてくれる物が飛び込んでくる。

しばらく沢の渡り返しとそんな光景を楽しんで、その先に目を移す。そこには横岳の岩峰、小同心と大同心が黒い地肌と雪の付いた白のコントラストと共に蒼い空に浮かぶ月を持ち上げるように座っている。

テント場に着くとみんな今日の行程(赤岳登頂)をすっかり終えてくつろいでいる。後発隊としては荷揚げもしていないのに、既に私達用のテントは張られているし、雪から水を作らなくても良いという水場がここにはあるし、でこんなに雪山テント生活いいのだろうかと思いつつも感謝々でありがたかった。

今回のテント同宿は一緒に上がって来たHさんと同人のSさん、まだまだテント経験の浅い自分としては先輩Sさんのやること話すこと全て手本になる。

テント生活では自分の荷物はスタッフバック(大)よりカモシカのデカバックに移した方が捜し易いし見やすい。大きめのコックヘルで水を作ったりお湯を沸かしたり、汚す器は一つだけ、汚した器(食べた器)は最後にお茶を飲みながらこびりついた部分をこそげ落とし、飲みきってふき取る等々、そして何よりだんどりがよいから行動が早い。本当に勉強になりました。Sさん、ありがとうございました。

次の日は前日よりさらに快晴。風もなく樹林帯をずんずん進む。ジョーゴ沢を渡りジグザグの急坂も順調に、ラッセルがないって、なんて幸せ。こんな日は赤岳だったらもっと幸せ?いいえ、硫黄でも充分堪能できました。赤岩ノ頭に出た時の爽快な眺め、雪の吹き飛ばされた岩原の硫黄の頂上は横岳、赤岳、阿弥陀に蓼科山、ついこの間行った天狗岳と充分過ぎるほどの景観でした。

一気に下ってテント場にもどり、テントの撤収。荷物をみんなに遅れずまとめるという目標(いつも遅い)も今回は達成できました。新年の登り始めとして実り多い山行でした。

報告者 福田 洋子



**自主山行**  
**南八ヶ岳／雪稜縦走**  
**1月11日～13日**

**参加者**  
CL松本 善行、矢田 実

**コース・行程の概要**

1/11 新宿→小淵沢(ムーンライト信濃)  
1/12 小淵沢駅→タクシー→天女山入口→天女山→  
前三ツ頭→三ツ頭→権現岳→キレット小屋(幕営)  
1/13 キレット小屋→赤岳→横岳→硫黄岳→赤岩の  
頭→赤岳鉱泉→美濃戸口

**コースの核心 講習のポイント**

1. 天女山～権現岳間のラッセルの有無降雪状況)
2. 権現岳からの立場川側へ下る長梯子(30m)の状態
3. キレット～赤岳間の岩稜の登り

**講習のポイント**

ラッセルや天候によってはかなり手強い。稜線上は幕営地も少なく、その時々合わせた行動の取れる判断が必要。特に、エスケープルートの設定が重要である。

今回の計画では、以下のエスケープルートを設定した。

権現岳→青年小屋→編笠山→観音平→小淵沢  
ツルネの頭→ツルネ 東稜→旭小屋  
赤岳→文三郎尾根→行者小屋  
地蔵の頭→地蔵尾根→行者小屋

急峻な雪と岩と氷のミックス帯、梯子や鎖場の通過、雪庇がでる部分もあり、確実なアイゼンワークとルートファインディングが必要とされる。

**報告者のひとこと感想**

仕事の都合で、急遽 11日の夜発となり、松本氏には迷惑をかけた。思い出の急行アルプス号の廃止は、登山計画の幅が狭くなるようで大変残念だ！

今回は好天に恵まれ、トレースもあり、ラッセルに苦しめられることなく 全行程予定通り 終了でき

たのは幸運だった。初日で権現岳まで到着しない場合は計画の見直しが必要だろう。この期間は冬季小屋の営業もなく訪れる人も少ない。技術的にも他の八ヶ岳の尾根ルートに比べ1. 2ランク上のものを要求されるが、自分たちでルートを進めていく喜びがある。赤岳から振り返る全コースは壮大ですばらしい。

研究生の方々には雪山縦走のまとめとしては是非チャレンジしてもらいたい。

とは言うものの、安易な気持ちで臨めるルートではないので、十分なトレーニングを積んでもらいたい。

最後に、権現岳～キレット～赤岳間は八ヶ岳でも最も深いとこなので、天候が荒れた場合はかなり厳しい。ポイントでも述べたようにエスケープルートの設定は重要。ツルネの頭→ツルネ 東稜→旭小屋のルートは一度体験しておくこと、心強い。それと、軽量化は心がけたい。

報告者 矢田 実



**シニア登山科／山スキーを楽しむ会**  
**白樺湖周辺・八子ヶ峰**  
**1月26日**

**参加者**

小林幸恵(シニア)  
末木俊之・久野真由美・南谷やすえ・原直之・  
吉国好道・浅子裕子(本科生)  
鈴木千穂・伊藤百合子(遠足)  
工藤寿人(講師)

計10名

**天候**

晴～曇り

**コース・行程の概要**

茅野駅集合→(タクシー) 白樺湖口イヤルヒルスキー場着(11時頃) →リフトでスキー場最上部  
シール装着し尾根歩き→八子ヶ峰(2in1スキー場上部) →八子ヶ峰ヒュッテアルビレオに至る

シールを外し滑走→滝の湯に下山(20:30頃)  
→(タクシー)茅野駅

**コースの核心・講習のポイント**

シールの着脱 シールをつけての投降 樹林帯の滑り・ルートファインディング

**感想**

「山スキー、初めて！広々した雪面にシュプールをつけていく。いいなあ、山って」と、なるはずだった・・・。

シールをつけてすいすい登れる。これは、すごい！天気もまあまあ、展望は最高だ。ヒュッテの前でシールをはずし、さあ、いよいよ滑降だ。雪が深いせいか、思うようにいかない。まあ、これも山スキーの醍醐味だ。広い斜面にはなかなか出会えない。結局樹林帯の中をいく。

気がつく、日が暮れかけている。あっヘッドランプ忘れた！こういうときに限って・浅子さんに、マグライトを借りた。本科生にあるまじき行為。情けない。樹林帯の中、斜滑降、キックターンの繰り返し。時には転んで、起きあがれなくなる。急な斜面では、ストックをグリセード式に持つと安定するなあ。読図力がものをいう。今の自分には、その力はないことを痛感。やっと、別荘地らしきところでた。だけど、下りがどちらだかわからない。逆方向に行ってしまったが、やっと下りにでた。ボーゲンで林道を降りていく。腿が痛い。やっと親湯にでた。もう二度山スキーなんてしない！と心に固く誓ったが、数日後、次回の山スキーの講習会に申し込んでしまった。なんで？

①きっと、冒頭の言葉のような滑りが次回は待っている。

②道なき道を行くところは、なんか楽しい。

③自分で地図を読みルートファインディングをしてみたい。

④スキーは、雪でもあまり沈まない。これはすごいでしょ。

⑤実は、結構はまるのが好き。(次回のはまりを期待しているわけではありません、あしからず。)

ともかく、2003年に初めて山スキーと出会いました。

報告者 南谷 やすえ

△△△△△△△△△△△△△△

**自主山行  
四阿山から根子岳縦走スキー登山  
1月26日**

**参加者**

宮下裕史 岩本一郎

**コース・行程の概要**

四阿高原ホテル 7:05 四阿山肩 10:20 鞍部 根子岳  
13:15 奥ダボススキー場 14:30

**コースの核心・講習のポイント**

四阿山からの急な尾根の下降と、根子岳山頂直下の岩場の通過

**報告者のひとこと感想**

本コースは山スキー登山としては一般のガイドブックに紹介されることは少ないが、95年に石井さんが講習山行として実施している。そのときの講習を受けた2名が、今回は自主研修山行として実施した。研修のポイントは四阿山の肩から根子岳までの通過であり、以下、その部分について記す。

好天でトレースがあったので四阿山の肩までは順調に到着。ここから根子岳まではトレースはない。根子岳分岐を示す指導標のところで、コルへの下降の準備に入る。方角を決め、急な森の入口に進む。この入口付近は想像よりも急で木も混んでいるので横滑りで下る。今回はシールを付けたままだ。スキーでの下降だが滑りとはいええない状態でじりじりと下降する。針葉樹の森だが晴れていたため、ちらりちらりとめざす根子岳が確認できた。視界が悪ければより慎重な下降が求められる。

無事に鞍部に到着。ここからの登りは、稜線上を忠実にたどり、岩場につきあたらたら状況を見て判断することとした。上部はウィンドクラストしているので途中スキーアイゼンをつけた。岩場につきあつたので、右のわずかな雪を階段で登って岩の上にでることにした。お互いに確保しあって、岩場の上にでる。わずかな距離が見通せないうえ声が届きにくく困った。岩場の先を見てみると容易には通過できそうもなく、結局、稜線の左の急な雪面を巻いて通過するほかないという結論になった。同じところをいったん下り、巻きに入った。急傾斜のトラバースなので、間隔をあけて進んだ。前方が沢状になった。その沢状の先はもう根子岳である。

沢状には入りたくないの、ここから直上して稜線にあがることにした。スキーで階段登行をはじめたが、急なうえ、深雪で消耗が激しいだけでほとんど高度が上がらない。スキーは脱いで坪足ラッセルで登ることとした。急斜面で雪にまみれながら板をザックにつける。登り始めるが、やみくもに足を動かしてもまったく上がれない。これはだめだと考えてきちんとラッセルの手順にしたがい足場を固めると、一步一步登れるようになった。やっとのことで稜線上にでた。あとは適当なところで再びスキーを履き、根子岳の山頂に到着した。四阿山の肩から根子岳まで3時間弱かかっている。

充実した山行となったが、同時に厳しさも実感した。レベルアップに努めたい。

報告者 岩本 一郎



投稿

C-UPコラム『新人クライマーのひとこと』

第3回

スノーシューとワカン

スノーシューとワカン。

この優劣については、それぞれの支持者がいろんな場所やいろんな誌上で、いろんなことを言ったり書いたりしている。そのせいもあって、へっぽこアルピニストとしては、結局どっちがいいのかよく分からない・・・。

それなら実際に両方を使ってみようということで、2月16日のタカマタギ講習に研修参加し、ワカンとスノーシューを途中で付け替えて、その感触の違いを確かめてみた。

それぞれの使用感については、独断と偏見が入っているかもしれないが、その点をご容赦願いたい。(スノーシューは、踵が固定される山岳用のタイプを前提としている)

まず、その前に、客観的に誰もが同意できるポイ

ントとして、次の4項目で優れているほうを書くと、次の通りとなる。

- 1. 価格      ワカン
- 2. 大きさ    ワカン
- 3. 重量      ワカン
- 4. 接地面積   スノーシュー

上の4点からは、ワカンは経済性に優れ、軽量かつコンパクトであるが、フカフカの新雪では、スノーシューのほうが歩きやすい(平坦地の場合)であろうことは誰にでもわかる。

ここまではよいとして、問題は山ではどうかという点だ。まず、トレースのない新雪の場合を考えてみると、

- 5. 登り      スノーシュー
- 6. 急な登り   スノーシュー
- 7. 下り      スノーシュー
- 8. 急な下り   引き分け

となるだろう。登りについては、急になればなるほどスノーシューのキックステップが威力を発揮する。軽く蹴り込んでいくだけで、30~40度程度の急斜面でも楽にクリアできるのは、実際にやってみればすぐにわかる。

ただし、急な下りの場合、山岳スノーシューといっても踵の部分がそれなりに長いので、怖さを感じてしまう。そんなときは、横向きになって斜め下へ降りるようにすれば快適だ。

次に、踏み固められたトレース上や、締まった雪では、こんな評価とした。

- 9. 登り      引き分け
- 10. 急な登り   スノーシュー
- 11. 下り      ワカン
- 12. 急な下り   ワカン

登りにおけるスノーシューの長所は、足とスノーシューが一体化しているということだ。ワカンでキックステップを多用すると、靴がずれてきて紐を結び直さなければならなくなることがあるが、スノー

シューでは締まった雪でもガンガン蹴り込むことができるので、締まった雪においても、新雪同様、急登には強い。

だが、そんなスノーシューも、固い雪の下りは苦手だ。まず膝への衝撃はワカンより大きいし、多少のデコボコがあるとけっこう歩みにくい。また、トレースのある急な下り坂では滑りやすいのでこれがとても厄介だ。わざとトレースを外して新雪を下れるようなら、まず間違いなくそのほうが下りやすいし、もしくはいっそのことグリセードにするか、あるいは、どちらもできない状況ならば、後ろ向きになって下るのが安全だろう。

以上が、両方を使って初めての感想だ。ここまで全12項目で5勝5敗2引き分けの五分となった。

そして、最後に、スピードという観点をこれらに加味すると、ワカンよりはスノーシューに分があるということになると思う。悪天候が迫り、一刻を争うような状況を想定すると、速さは重要だからだ。

補足として、トラバースとアイスバーンについては、ここでは触れていないが、ワカンもスノーシューもそれほど得意分野とは思えない。

急斜面のトラバースでは、両者ともに、壁に正対して、キックステップで蟹のように横移動する必要があるだろうし、アイスバーンでは状況に応じてアイゼンに付け替えるような臨機応変な対応が必要かもしれない。

結びに、この両者をどう使い分けるのがよいかということだが、私の考えでは、ラッセルの可能性が高いと最初から分かっている場合にはスノーシューを、そして、ラッセルの可能性はあまりないが、万一に備えて持っていくということであればワカン、ということになるのではないだろうか。（秀）

今月号は自主山行原稿が多く、先輩方々の記述がとて参考になります。山スキーも私は今期2回講習に参加しました。八子ヶ峰は樹木が多く急斜面で、爽快な滑走というコースではありませんでした。先日群馬玉原高原・ニヶヶ山スノートレッキング講習にワカンで参加しましたが、ここも初級山スキーコースなのでしょうが、想像していたよりも急斜面で樹木が多いところでした。根子岳も岩場があったり樹木が込んでいたりとなんか甘いものではないんですね.. 厳冬期は表層雪崩の危険があり、樹木の密集したコースでないといそれとは近づき難いものがあり、またフカフカの深雪は滑りにくいし、山スキーは技術・体力的に想像していたより難しいと理解しました。前武尊山山スキー講習は樹木もまばらで、フカフカの深雪で楽しかったのですが、雪崩の危険が付きまわっていたのでしょうか？（講師の後を付いて歩いているだけの自分のような新米は脳天気楽しんでました!...）

ニヶヶ山は、そんなに深い雪ではありませんでしたが、そのくらいの雪だとワカンが軽快で楽しく感じました。重いアイゼンを着けて歩いた金峰山山スキーで下山に苦しんだ八子ヶ峰と比べてなんて軽快なんだろう!と.. 幸せな気分でした。）

さてこんな感じで、自主山行原稿・投稿コラム原稿は大変参考になってありがたいです。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

## アドレス

無名山塾	<a href="http://www.sanj.c.com">http://www.sanj.c.com</a>
山塾サポート	<a href="mailto:RXL13656@nifty.ne.jp">RXL13656@nifty.ne.jp</a>
	Phone 03-3941-3481
	Fax 03-3941-3482

iモード

<http://member.nifty.ne.jp/~c-up/i.htm>